

Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
サブカテゴリ1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 4/4
評価項目1 子どもや保護者等に対してサービスの情報を提供している		評点(0000)
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 子どもや保護者が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 子どもや保護者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 子どもや保護者の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	○ 非該当
サブカテゴリ1の講評		
<p>事業所ホームページを中心に、事業やプログラムの内容を発信している</p> <p>事業所の情報は、主にホームページを通して発信している。ホームページでは、理念や目指すもの、大切にしていること、プログラムの内容や特色などを案内している。パンフレットも作成し、関心を持つ方が手に取ることができるようにしている。そのほか、公的機関が運営する情報サイトへの事業所情報の掲載、各種連絡会への参加などにより、情報が広く行き渡るように取り組んでいる。</p> <p>見学時は、ニーズに応えつつ、特色について案内している</p> <p>当事業所を利用者・利用希望者が知るきっかけとしては、相談支援事業所を経由したもの、他事業所からの紹介、そして保護者同士の口コミなどがある。見学を受け入れる際は、通所希望を念頭に来られる方が多いため、利用日のほか、スケジュール プログラム・療育内容などについて尋ねられることが多い。そうした関心に応えつつ、運動面からのアプローチを行っていること、子どもに合わせたプログラムの設定、通っていただけるための配慮などについて説明している。</p>		

サブカテゴリ-2		
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 7/7
評価項目1 サービスの開始にあたり子どもや保護者に説明し、同意を得ている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を子どもや保護者の状況に応じて説明している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. サービス内容や利用者負担金等について、子どもや保護者の同意を得るようにしている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. サービスに関する説明の際に、子どもや保護者の意向を確認し、記録化している	○ 非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. サービス開始時に、子どもの支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように支援を行っている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. サービス利用前の生活をふまえた支援を行っている	○ 非該当
● あり ○ なし	4. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	○ 非該当
サブカテゴリ-2の講評		
<p>保護者、子ども、それぞれに、基本的なルールなどを説明している 問い合わせ・見学、所定の手続きを経て利用契約に至る段階で、すべての保護者に対し、契約内容や利用上の留意事項などを個別に説明している。そして、質疑応答を経て、理解と納得の上で、書面への署名・捺印を得ている。子どもに対しては、利用開始時のほか、指導の中で基本的なルールを随時知らせている。</p> <p>収集した情報を子どもとのかかわりに活かし、安心して過ごせるよう配慮している 問い合わせ・見学／体験時のやりとり、利用開始に際しての提出書類、聞き取った内容など、支援に必要な情報を個人ファイルにまとめている。利用開始直後の時期は、一人ひとりの子どもの様子を観察し、活動に参加したり他の子どもとのかかわりを持つことができるよう援助したり、落ち着いて過ごせるよう環境を整えることで、安心して過ごせるように配慮している。支援にあたっては、保護者から提供され情報のほか、相談支援事業所から得た情報なども踏まえて、かかわりに活かしている。</p> <p>サービス終了後も、相談できる関係を維持している サービスの利用終了後も、支援の手がとぎれないようなシステム作りを見なっていくことには意欲を持ちつつも、難しさも伴っている。現状では、利用期間中に培った信頼関係を基盤として、終了後も相談に応じるなどのかかわりを持っている。</p>		

サブカテゴリ-3		
3	個別状況に応じた計画策定・記録	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 11/11
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメントを行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し、把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 子ども一人ひとりのニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当
評価項目2 子どもや保護者の希望と関係者の意見を取り入れた個別の支援計画を作成している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 計画は、子どもや保護者の希望を尊重して作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 計画を子どもや保護者にわかりやすく説明し、同意を得ている	○非該当
●あり ○なし	3. 計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直ししている	○非該当
●あり ○なし	4. 計画を緊急に変更する場合のしきみを整備している	○非該当
評価項目3 子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 計画に沿った具体的な支援内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 計画の内容や個人の記録を、支援を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当
●あり ○なし	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもに変化があった場合の情報を職員間で共有化している	○非該当
サブカテゴリ-3の講評		
初期のサービスを計画に根拠づけてスタートさせている 一人ひとりの希望や心身状態・生活状況などをもとに課題を整理し、目標を立て、支援内容を決定している。作成した計画は、半年ごとに見直しを行うこととしている。新規の利用者については、体験の段階で個々の状況を観察し、必要な支援の内容などを見極め、利用契約の時点で暫定的な個別支援計画を提示している。これにより、利用開始日から計画に基づくサービスをスタートさせている。		
多角的な視点から子どもの姿を捉え、必要な支援を導いている 創作的な活動のほか、特に身体全体を使った活動を中心としたプログラムを設定し、様々な視点から子どもの心身の発達を支援している。アセスメントにおいても、多角的な視点で子どもの姿を捉えている。生活面、行動面、運動面などの大枠から、動きを感じる感覚、注意・集中、多動性・衝動性、こだわり、対人関係、触覚、聴覚などのほか、手の操作などの点でも特性を整理している。そのほか、児童発達支援と放課後等デイサービスのそれぞれの支援に必要な情報を、例えば、言語、聞く・話す・読む・書く・計算する・推論するなど、細かく見立てている。		
支援会議などをはじめとして、様々な機会を捉えて、情報共有を図っている 計画に基づく支援の経過を日々記録している。また、計画作成時の情報共有に加えて、できる限り常勤職員全員で支援会議を行い、個々の目標や支援のポイントなどを共有している。そして改めて半年間の支援を振り返ることで、一人ひとりの変化や成長を確認している。		

サブカテゴリ-5		
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、子どもや保護者の同意を得るようにしている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 日常の支援の中で、子どものプライバシーに配慮した支援を行っている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 子どもの羞恥心に配慮した支援を行っている	○ 非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、個人の意思を尊重している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 日常の支援にあたっては、個人の意思を尊重している(子どもが「ノー」と言える機会を設けている)	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した支援を行っている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 施設内の子ども間の暴力・いじめ等が行われることのないよう組織的に予防・再発防止を徹底している	○ 非該当
サブカテゴリ-5の講評		
<p>保護者の意向、子どものプライバシーや羞恥心に配慮している</p> <p>利用契約の説明時に、個人情報の取り扱いについて保護者と書面を交わしている。ここでの同意の範囲において、必要に応じて関係機関と情報交換をしている。子どもの自尊心や羞恥心への配慮としては、活動の中で出来たことをしっかりと認めて本人のやる気や自信につなげている。失敗と思えるような職員の言動は避け、肯定的な視点の実践を追求している。</p> <p>限られたスペースの中で、着替えの場所を工夫している</p> <p>子どもの着替えの際は、他者の目に触れないように場所を配慮するなどしている。身体を動かすプログラムが多いため、着てきた服装のまままで活動に参加可能としている。制服から着替える際は、男女別に対応している。安全面がクリアできれば仕切りやカーテンの導入も検討したい考えである。現在は、トイレ前のスペースに扉があるため、そこを使うこともある。カーテンは子どもが引っ張るリスクもあるため用いず、巧技台でバリケードを作ることもある。男女比率も毎回異なることから、決まったスペースは作りにくいいため、固定せず柔軟に対応している。</p> <p>子どもの意思の尊重やトラブル回避を実践している</p> <p>確立したプログラムの中でも、状況を見ながら、子どもが自分で選択して活動に取り組めるように配慮している。また、見学時や契約時に聞き取りをした内容や、モニタリング時の面談において把握した価値観や生活習慣などを踏まえて、支援を展開している。さらに、個々の子どもの自主性や主体性を尊重しつつ、職員全体で子どもの様子を注視し、トラブルの発生防止に努めている。</p>		

サブカテゴリ-6

6	事業所業務の標準化	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	3/5
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(○●)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○ 非該当	
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうかを定期的に点検・見直しをしている	○ 非該当	
○あり ●なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○ 非該当	
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(○●)	
評価	標準項目		
○あり ●なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	○ 非該当	
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や子ども・保護者等からの意見や提案を反映するようにしている	○ 非該当	

サブカテゴリ-6の講評

事業所業務の標準化を図るために事業所ハンドブックを活用し法令遵守を意識している
 法令遵守を強化するため、事業所ハンドブックを活用し、事業所業務の標準化を進めている。事業所には規程類や危機管理マニュアル、防災マニュアルなどが備えられているが、1事業所だけの規模であり、設立時から勤める職員が多く、職員の定着があるため、これまで手引書がなくても、職員は定められた手順や対応などを定期的な研修受講と外部講師による指導を通じて身につけてきた。今後は将来への備えとして、業務の標準化を更に強化するためにマニュアル化についても検討を進めていく予定である。

サービスについて手順の見直しなど、子どもを尊重しながらサービスに反映させている
 子ども一人ひとりには個性があり、また子ども同士の相性や行動の違いなどがある中、一人の子どもに対しても曜日によっては支援内容を配慮したり、工夫したりする必要がある。そのため、手順一つであっても場合によっては子どもにも希望を確認し、ご家族の考えや意見を取り入れながら支援計画に反映させている。職員の対応を工夫したり、スペースを分けたりしているが、今後は訓練に適した巧技台の導入も検討しているところである。